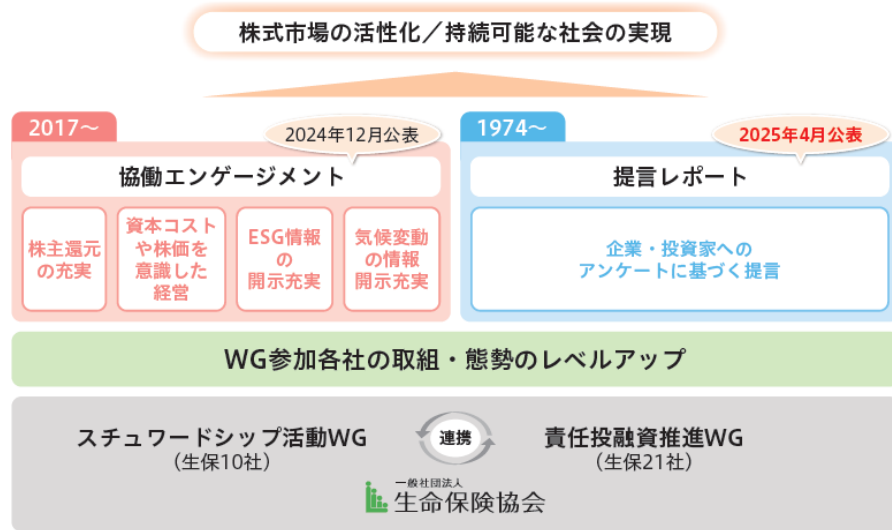


生命保険会社の資産運用を通じた 「株式市場の活性化」と「持続可能な社会の実現」に向けた取組み

生命保険協会（会長：永島英器 明治安田生命保険社長、以下「当会」）は、株主・投資家双方の立場から、株式市場の活性化・持続可能な社会の実現に向けた提言をとりまとめた報告書（以下、「報告書」）を公表しましたのでお知らせします。本取組みは、1974 年度より 50 年間にわたり継続的に実施しています。



この度、株式市場活性化と持続可能な社会の実現を企図した 2024 年の活動内容等について、企業（上場企業 1, 200 社）および投資家（生命保険会社等の機関投資家 170 社）に対しアンケートを実施しました。

上記アンケートの分析結果をもとに、資本コストや株価を意識した経営や、企業と投資家の対話の推進、開示の充実等に対し高まる社会的な要請を踏まえ、提言内容を見直しました。

提言レポート：https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_1.pdf

<見直しを実施した主な提言内容>

変更	【提言②】資本コストや資本収益性の分析・評価に基づいた ROE 等の資本収益性目標設定と水準向上に向けた取組推進
	【提言⑨】中期経営計画等で示される経営戦略と連動した ESG 取組の計画策定と実行
・今年度実施した企業・投資家向けアンケートでは、東京証券取引所が要請する「資本コストや株価を意識した経営」に関して、企業・投資家ともに多くが対応している/評価できると回答するなど日本企業の対応・開示には前向きな変化が見られる一方で、依然として約半数の投資家が日本企業の ROE 水準は資本コストを下回っていると回答しており、企業の取組には更なる改善の余地があるものと考えられる。 ・また、一部の投資家は日本企業の ESG 取組が中期経営計画等で示される企業価値向上に向けた経営戦略と連動していないと回答。 ・以上を踏まえ、「経営目標／財務戦略」「ESG 取組促進」に関する提言について一部変更。（赤字部分を修正）	

当会では、ESG 投融資やスチュワードシップ活動の取組みを積極的に推進し、生命保険会社が「責任ある機関投資家」としての役割を一層発揮することで、社会課題の解決に貢献していきます。

本報告書を通じ、日本の株式市場の更なる活性化と、持続可能な社会の実現に向けた企業、投資家等による取組みがさらに進展する一助になることを期待します。

< 報告書 >

統合版：https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_all.pdf

1. 生命保険会社の資産運用を通じた「株式市場の活性化」と「持続可能な社会の実現」に向けた取組について

・ 提言レポート

： https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_1.pdf

・ 提言レポート(英語版)

： https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_2.pdf

2. 企業価値向上に向けた取組みに関するアンケート

・ 企業向けアンケート集計結果

： https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_3.pdf

・ 投資家向けアンケート集計結果

： https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_4.pdf

・ 企業・投資家の結果比較

： https://www.seiho.or.jp/activity/sdgs/esg/pdf/20250418_3_5.pdf

以 上